

地域の特徴となる生物を中心とした保全 そこから広がる地域活動

福岡県 : NPO 法人 ヒナモロコ^{さと}郷づくりの会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

ヒナモロコの保護と営農との調和及び共生

【経緯】

ヒナモロコ、唯一の生息地をほ場整備事業に伴い、県が「竹野地区のヒナモロコの保護に関する協議会」（以下協議会）を組織。現在は当会が、協議会の会長を兼任し、魚類保護のための環境保全に向けた取り組みを実施している。



水路での子供たちの活動

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】木柵土水路、石積み深み部、魚道、水田魚道

【活用した事業等】県営経営体育成基盤整備事業（ほ場整備）竹野地区

【保全対象生物】ヒナモロコ、その他（水田・水路の生きもの）

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 水路等の生息調査

- ①周辺水路での魚類を中心とした生息調査
 - ・活動頻度は年9回前後となっている

2. 環境保全施設の維持管理活動

- ①泥上げや周辺の草刈りなど
 - ・会員による水路内の泥上げや法面の草刈りなどを実施

3. ヒナモロコの保護活動

- ①ヒナモロコの飼育
 - ・分散飼育と定期的な親魚交換で遺伝的多様性を保持
 - ・増殖した分を地域の小学校に配付し、学生と共に放流を実施

4. 昔田んぼの復元、自然観察会、環境教育

- ①子供たちへの自然観察会等を通した環境教育
 - ・田んぼ周りの生きものに適する環境を子供たちと学び、保護活動や環境教育に活用



水路の維持管理



ヒナモロコの放流活動

○継続した活動でこんな効果が！！



ヒナモロコ水路

■子供たちの農業や自然への興味関心の向上

・地元の小学生によるヒナモロコの放流活動により、地域の農業や自然に対する興味関心を深める機会となっている。

■外部からの保全活動への寄付

・新聞等の報道やブログ、ロータリークラブ等での支援要請活動で関心を持たれ、賛同された団体から支援を受けている。

■地元農家の保全活動への参加

・水路の泥上げ等の活動に農家の方々が熱心に取り組んでいる。

○課題・苦労した点

■生物保護に関する知識不足等

・専門的な知識がないため、ヒナモロコの保全対策の確立に苦慮した。また、ボランティアだけの活動では限界があるため、活動の継続に不安があった。

○工夫した点

■協議会に水族館の方を招いたこと(加入)

・専門的な知識により保全対策の確立に寄与した。保全活動をボランティア頼みだけではなく、水族館の方の協力を得ることで、ヒナモロコ保護活動の持続可能性を高めた。

○活動の特徴！！

■水族館の方と協力した保全活動

・保全活動に関する技術や知識面、環境教育など、多方面において水族館員からの協力は、保全活動の継続に大きく寄与している。



○団体の概要は？

- ・平成22年度に設立され、平成24年度にNPO法人化。活動エリアは福岡県久留米市(旧竹野村、旧水縄村辺り)としている。
- ・NPO団体であり、人数は約30名。
- ・年間運営費は補助金60%、会費20%、寄付10%、事業収入5%、その他5%となっている。
- ・年間活動日数は、約40日である。

